

1: アグラセミナー

★ 仏陀ゴールデンロード セミナースタート

● **タージマハル**: 正確無比なシンメトリーが美しいパレス風の建物。宮殿ではなく霊廟である。ムガル帝国 5 代皇帝シャー・ジャハーンが、亡くなった王妃のために 1632 年から 22 年の歳月とのべ 2 万人が携わって建てさせたという。世界遺産。



タージマハル

● **アグラ城**: 赤砂岩の無骨な城壁に隠された優雅な宮殿。ヤムナー川岸に建つ、ムガル帝国第 3 代皇帝アクバルによって 1564 年から築かれた城。



アグラ城

◆アグラセミナーのポイント

仏陀ゴールデンロードセミナーのスタート。仏陀の悟りへの過程と体系と智慧をビジネス・人生に生かす具体的実践手法を説く。

2: パトナセミナー(車中)

★ 仏陀、出家の決意を新たにす

● 厚く広い胸をしたかの王子は、祭儀と政治をそれぞれ取り仕切る二人を残して、波揺れるガンジス河を渡り、パータリプトラ(現在のパトナ市)についた。ガンジス河の左岸より北方の故郷カピラ城を思い、出家の任務を新たにするのであった。

● 王子は期待と不安を持って、当時最強国マガダ国の都、美しい邸宅の多いラジギール(王舎城)へ向かった。「生老病死」からの解放を求めて……



パトナ

◆パトナセミナーのポイント

仏教を全インドに広めたアショカ大王が治めたこの地は仏陀にまつわる遺跡がある。仏陀が出家の決意を新たにすガンジス河を渡った地でもある。(ゴータマ渡し)

仏陀の内面の悩みと、誕生から出家までの出来事を説く。

又、「仏陀ゴールデンロード」の出発にあたり、このセミナー目的、全行程の解説をする。

3: ラジギールセミナー

★ 仏陀、ビンビサーラ王に会う

● この都は五つの山々に美しく飾られ、外的から守られている。又、めでたい温泉場に支えられ、清められている。王子は心静かにこの都に入って行った。王子を見るや都の人々はその威厳と輝きに敬意を払わないものはなかった。

● マガダ国の王、シュレーニャ・ビンビサーラは宮外のこの噂を聞き、「王子はどこへ行くのか調べて知らせよ」と家来に言った。



竹林精舎

◆ラジギールセミナーのポイント

当時最強国の首都である。仏陀は悟りを開いた後、ビンビサーラ国の約束を実行し、王とその家臣、民衆に対し、説法をする。感銘を受けたビンビサーラ王は「竹林精舎」を仏陀に布施する。

これが仏陀の精舎第 1 号で、仏陀の生涯の布教活動の中心となる。

2500 年の歳月を超え、仏陀当時を思い起こさせる竹林精舎の豊かで静かな環境の中でセミナーを開催する。

8: ベナレスセミナー

★ 仏陀、生涯の布教活動に乗り出す

● ベナレスでヤシヤスという名の長者の息子は、放蕩の末、快樂のむなしさを知り、「この全ては煩わしい」という言葉をおのづから呟きながら、きらびやかに美しい飾りを身につけたまま、仏陀のおられる所へ行った。人の心と煩惱とをよく知る如来(仏陀)はヤシヤスをごらんになって仰せられた。「絶対の安らぎ(涅槃)の中には災いはない。来たれ、至福を得よ」

● ヤシヤスは仏陀の説法で阿羅漢となり、彼の母親と妻は仏陀の説法で在家信者となりその時同席したヤシヤスの友人 4 人と後から 50 人の友人が彼の解脱に感銘し、出家信者となった。仏陀の以前からの友 5 人と合わせ 60 人の出家信者集団ができたのである。

● 仏陀はマガダ国の王との昔の約束を思い出され、法戦で勝ち信者にしたカッサバ 3 兄弟の弟子 1060 人に囲まれラジギールに行かれた。

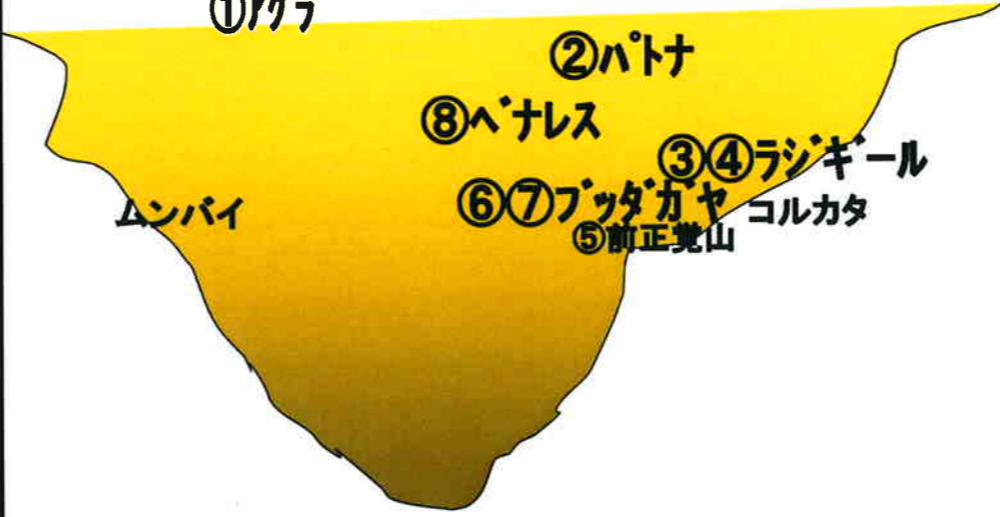
◆ベナレスセミナーのポイント

聖地ベナレスのガンジス河船上からご来光を仰ぎ般若心経を唱和。沐浴ガートで仏陀の説法を説く。



ガンガーのガート

松村率雄と行くインド 仏陀ゴールデンロードセミナー



4: 霊鷲山(りょうじゆせん)セミナー

★ ウッタカラマプッタよりヨーガを学ぶ

● ビンビサーラ王は応じが山中にいることを知り、尊敬の念にかられ、その場所に向かって出発した。王は真理を求める人を山の上で見た。王は仏陀に出家を止め、その才能を国の繁栄に役立てるよう松露の半分を自由に活用することを提案した。

● 王子はこの要請を丁寧に断り、悟りを得たあかつきにはお会いすることを約束し、「生老病死」からの解放のためにヨーガを学ぶべく、師を求めるのであった。

◆霊鷲山セミナーのポイント

仏陀が般若心経や法華経を説法した仏教徒にとって、最大の聖地である。

霊鷲山山上より、夕陽を見ながらの般若心経の唱和はまさに、仏陀が今、ここに出現し、われわれを歓迎してくれる雰囲気を感じさせる。

今も存在する仏陀の説法場、舍利子、魔訶迦葉(まかしょう)が瞑想(坐禅)した洞窟も存在する。

ここで、永遠の仏陀に私たちは逢う。



靈鷲山

7: サールナートセミナー

★ 仏陀、初めて法を説く「初転法輪」

● 他の人々の理解していない理解すべきことがらを、私はあますところなく理解した。諸々の苦しみに疲れ果てた「5 人の友達」に利益を与えるためにベナレスに行こう。

かしこにおいて不死の真理の鼓を打ち鳴らそう。自分の名声や幸福のため、また自慢のために行くのではない。自ら彼岸に渡ったならば、世の人々を渡らせよう、自ら苦から解放された時には人々を解放しようと、昔生ける者達の世界が悩み疲れている有様を見て、私はこう誓いを立てた。

● 5 人の仲間は遠くから仏陀を見てお互いに次のような言葉を語り合った。「かつて苦行を捨てて安楽に耽ったゴータマがこちらにやってくる。たつて向かえるべきでない。挨拶するにも値しない。誓いを捨てるようなものは供養するにふさわしくない」

● しかし、仏陀が近づくと……

◆サールナートセミナーのポイント

仏陀の「悟りへの真理のシステム」を、仏陀が悟りを説いた同じ場所、ダメクストゥーバを仰ぎながら説く。セミナー参加者は悟りをわがものとする。



ダメクストゥーバ

6: ブッダガヤセミナー

★ 仏陀、悟りを開く「成道」

● 苦行は悟りへの道でないことを知り、幼少の頃ジャンプ樹で得た瞑想(坐禅)こそ悟りへの道であることを洞察した。健康で充足した心から、深い精神集中(三昧)が生じる。したがってこの方法は食事を前提とする。

● 痩せ細った王子はネランジェラー河で沐浴し、牛飼いの娘スジャータから乳粥(キール)を受けた。苦行を共にしていた 5 人の仲間は王子が墮落したと感じ去った。

● 王子は自らの決意のみを頼りに真理を会得しよう決心して、緑なす大地に囲まれたアシュバツタ樹(菩提樹)の根元に行き、坐した。欲界の王、マーラ(悪魔)は恐怖を感じ、あらゆる武器を活用し、攻撃を仕掛けた。王子はこの戦いに勝ち、ついに悟り、つまり真理を会得し悟り人、目覚めた人仏陀になった。出家から 6 年、35 歳であった。

◆ブッダガヤセミナーのポイント

仏陀の「悟りの体系」を、仏陀が悟りを開いた菩提樹下で説く。大塔二階の瞑想室で瞑想(坐禅)し、仏陀になる。セミナーのハイライトである。



大塔

5: 前正覚山(ぜんしょうがくさん)セミナー

★ 仏陀、苦行を開始する

● アートマン(真我)を認める限り、「生老病死」からの解放は無理と王子は洞察し、ヨーガの修行をやめ、ウドラカの庵を去った。ガヤ郊外の人気のないネランジェラーの清らかな岸辺に修行の地を求めた。自身に頼る修行、つまり苦行の開始である。

● 王子は断食による困難な修行にとりかかった。6 年の間に体は痩せていった。この苦行から「信・勤・念・定・慧」の悟りへのプロセスを無意識のうちに会得していったが、まだ悟りの岸は闇の彼方であった。

◆前正覚山セミナーのポイント

苦行は悟りを会得する手段にはならなかった。しかし苦行の実践は悟りへのヒントになったのは事実である。

苦行の地「前正覚山」へ仏陀の苦行を肌で感じることができる。

悟りへ到達するプロセスとして仏陀の苦行の情景を目の当たりにすることは、私たちが悟りに到達する上で忘れることのできない貴重な体験となる。



前正覚山セミナー